

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo: Time Sq-42St Station

《ニューヨークの地下鉄》

今回はニューヨークの地下鉄＝サブウェイの話。最近耳にして時代の流れを感じたのは、ニューヨークで生活していた当時、地下鉄に乗る時に使用していた直径 2cm 程のコインのようなトークンは既に廃止されてしまっており、現在は磁気式のメロカードが使われているとのこと。

正式にはトークンの販売は 2003 年 4 月 12 日で中止され、同年 5 月 4 日以降一切使用できなくなったそうだ。その後、トークンはニューヨーク交通博物館に収蔵・展示され、日本ではオークションで 1 枚数千円単位で取引されているそうで、そんなニュースにも時の流れを感じてしま

う。当時は一乗車につきトークン代 \$1.25 でどこにでも行けたのだが、現在は一律 \$2.75 (メロカード利用時 1 回分)、\$3.00 (シングルライド＝1 回券) だそうだ。日本でも PASMO や SUICA が登場したことを考えれば当然のことなのだろうが、トークンを入れ、回転式の扉を通して地下鉄を利用していた時代が懐かしい。

当時利用していたのはアッパーウエストのアパートから一番近くの 79St Station か、歩いて数ブロックの 72nd Station だった。79St Station には各駅列車の Line ①と Line ⑨ (赤丸に①と⑨のマーク) しか止まらなかったが、その後 Line ⑨は廃止されたようだ。急行 (Express) の Line ②や③が凄いスピードで 79St Station を通り過ぎて行く光景も懐かしい。

ニューヨークの地下鉄の駅で有名なのはタイムズ・スクエアの 42St Station だろう。この駅には当時からミュージシャンが演奏する光景がよく見られた。ジャズやロック、ブルース等、ジャンルも様々で二胡を演奏する中国人の姿やウッドベース代わりに、金ダライを共鳴材、棒をネックに使った弦一本の楽器＝ウォッシュタブベースを弾く人の姿も見られた。ひと昔前は駅構内やホームで誰でも勝手に演奏できたようだが、その後、許可かオーディションのようなものが必要となったと聞いたことがある。その他、ダンスを踊る若者や絵を描いている人など、この駅で見られる光景は完全に日常生活に溶け込んでいて、出勤や帰宅時間帯に構内を行き交う人たちも癒されていたはずだ。

ニューヨークの地下鉄といえば、デューク・エリントンの演奏で知られるスタンダード・ナンバー「A 列車で行こう」が有名だが、1970 年代から 80 年代にかけては、落書きだらけの車両が名物だった。その頃の映像はジャズ・ベーシストのチャールス・ミンガスが音楽を担当しているドキュメンタリー映像『Stations Of The Elevated』(Streetwise films) で観ることができる。ミンガスのジャズと映像が絶妙なコントラストを生み出しているのも、機会があれば観てみたい。

ニューヨークの地下鉄は 24 時間運行で、夜遅い時間を過ぎた後の乗車は危険と言われているが、生活していた当時は夜 12 時頃にウェイターの仕事を終えて、それからジャズ・クラブ等をはしごした。深夜 2 時、3 時や明け方に乗ることもよくあったが、お陰様で危ない目に会うことは一度もなかった。それぞれの駅や車両の雰囲気や瞬間に察して、事前に危険を回避する心構えは持っていたつもりで、そんなことも含めてニューヨークの地下鉄や駅にはそれぞれ思い出がある。